

## 中部支部

支部長 松原貴子

### 【活動報告】

今年度の当番世話人である藤田医科大学村井美代先生を中心に活動計画を立ててきましたが、残念ながら、新型コロナウイルス（COVID-19：Coronavirus disease 2019）感染症による影響を受けて活動内容を変更しています。

#### 1. 第19回中部支部研修会

会期：2021年2月6日（土）

テーマ：「臨床倫理の基礎と実践 事例を通して学ぶ臨床倫理」

講師：稲葉一人氏（中京大学法科大学院教授）

⇒下記の通り研修会を予定しておりましたが、講師の方のご都合もあり中止となりました。

#### 2. 2022年第46回死の臨床研究会年次大会準備

大会テーマ：「いのちをつなぐ～そのときをどう生きる？  
どう支える？～（仮）」

支部長 松原貴子

現在、大会長・実行委員長を中心としたコアの準備委員会を開きつつ、どのような開催がよいのか検討を続けています。大会テーマについて少し述べてみたいと思います。

#### 《新型コロナ感染症と新時代》

新型コロナ感染症は、我々の生活に大きな影響を与えています。新型ということもあり、顔がよく見えない相手を敵に回して、右往左往するしかない状況にあり、感染拡大予防のため、3密を避けて過ごす生活に突入しました。マスクの着用を続け、アルコールによる手指消毒を続けています。これまで日常あたりまえであった人間関係を分断させて、親しい関係を断ち切らざるを得ず、孤独・孤立に追い込まれています。また、だれでも罹患する可能性は、さらに人と人との距離を遠ざける結果になっています。罹患した場合の機能低下（著しい倦怠感や味覚障害など）もさることながら、重症化した場合の生命危機は、多くの方が自分のいのちの意味と向き合う時間を生んだかもしれません。「死の臨床に

おける真の人的支援」も、コロナ以前に戻るのではなく、新しい生活様式の中での形を模索していく時代となりました。この危機をチャンスに変える意味でも、「さまざまな命の終わりを見つめ、QOLとQODを考える」ときを持ってはどうかと考えています。

#### 《三重という「勢の国」にまつわること》

いまでこそ、伊勢神宮のある伊勢市という限定された土地を指しますが、本来は三重県のほとんどが「勢の国」です。一般的には伊勢神宮と呼びますが、実は「神宮(=The神宮)」です。そこには「常若(とこわか)」という思想があり、常に若々しい状態を保つということです。神道では「死を忌み嫌う」といった解釈もあるようですが、本来は、老いる・朽ちるなどを避けるのではなく、当たりまえのものとして捉えているようです。いのちが有限であるがゆえ、断絶しないよう技術や知識すらも次の世代に伝承していくことに重きが置かれます。家族という血のつながりだけでなく、地域そのもの、そこにある文化や思想、ありとあらゆるものを受け取り次につないでいく思想があります。次に受け継いでいくからこそ、常に新しい息吹とともに生き続けることができるのです。

看取りも、「息を引き取る」と表現するように、次世代が引きつぐと読むこともできます。大きな自然・長い歴史の中での一人の人として、なにを受け継ぎ、次にどのように引き継ぐのかは大きな命題のように思います。

#### 《いのちをつなぐ》

いのちにまつわるつながりは、時間軸の中でのつながり、同じ時間を過ごすものとして社会の中でのつながり、場所のつながりなど、さまざまあり、きっと、死をも超えたつながりになるでしょう。その中で、伝える、伝わる、もしくは、伝わっていくものは、文化や思想、知識、技術、道具・方法、いくらでもあると思います。

年次大会では、ひとりのひとが死を迎える際に焦点を向けてみたとき、「誰と誰がどのようにつながるとよいのか」「いつかは死を迎える「私」としては、何をどのようにつないでいけばいいのか」を考える場になればとおもいます。

互いに迎える死と、それまでのよりよい生のために。

#### 【活動予定】

次年度以降の行事予定は現在未定です。

開催決定次第お知らせします。

【入会のご案内】

中部支部では、随時新規会員を受け付けております。下記の事務局連絡先に、中部支部入会とし、お名前と連絡住所をメールもしくはFAXしてください。追って、申込用紙を返信いたします。  
中部支部入会金：1000円 中部支部年会費：1000円

○問い合わせ先○

〒504-8601

岐阜県各務原市蘇原東島町4丁目6-2

公立学校共済組合東海中央病院

TEL ; 058-382-3101 FAX ; 058-382-1762

E-mail; miho.sawai@tokaihp.jp

担当者：澤井美穂